

## Little Labs VOG

### ベースレゾナンスプロセッサ

多くのトップエンジニアにとって Little Labs VOG (Voice Of God) は、ミックス時の究極のベースレゾナンスツールです。初めてプラグインとして使用できるようになり、UAD-2 プラットフォームとして Little Lab 社から許諾を受けた“VOG”は 500 シリーズハードウェアオーディオプロセッサの独特なサウンドキャラクターを正確にモデリングしています。ボーカルからベース、ドラムまで、低域の材料をターゲットとして引き立たせるためにシンプルな EQ を越えて重さや精度を加えるために VOG を使用します。簡単に使用でき、ミックスの低域部分の拡大鏡のように使用可能です。

良いミックスをするために最も重要な要素の一つは、低域同士がぶつかり合わないようにすることです。たとえどんな音楽のスタイルだったとしても — ロックからレゲエ、ヒップホップやハードコア — ほとんどのツールは“Little Labs VOG”ほど使いやすくはなく、しかも効果的ではありません。

### ヒストリー

Little Labs には、クリエイティブなカラーリング効果を持つエフェクトやスタジオで起こる問題を解決するツールを作る能力があります。UA と Little Labs の最初のコラボレーションは、UAD Little Labs IBP プラグインのリリースでした。今日では最も用途が広いフェイズコレクションプラグインだと認められています。ユニバーサルオーディオと Little Labs の継続的なコラボレーションは、もう一つのスタジオクラシックといえるものを提供します。それは“VOG”です。

2009 年の導入と同時にハードウェア VOG のユーザーは、複数のユニットが必要であるとすぐに理解をしました。 — ベース、バスドラム、タム、低域のパーカッションと特にボーカルに。ユーザーは、幸いにも UAD-2 の Little Labs プラグインによって、それらの「ローエンド」を生き返らせることが可能になります。

## Little Labs VOG スクリーンショット



図 104. UAD Little Labs VOG プラグインウインドウ

### 操作について

2つのシンプルなノブはそれぞれ、VOGのエフェクト量とその周波数レンジを調整するもので、お好みに応じてダイヤルできます。スウィープさせる周波数レンジのセンター位置は40Hzと100Hzの2つのボタンによって選択可能です。両方のボタンを同時に押すとセンター位置を200Hzに設定することができます。ターゲットとなった周波数ピーク以下は、オクターブあたり-24dBのスムーズなカーブで減衰されていきます。上記の周波数が完全なままローエンドがタイトではっきりさせることを確実にします。ピークレゾナンス周波数の“アンプリチュード”が高いほど、不要な部分をカットし、効果的に2つの機能を実行します。“フラット”ボタンをクリックすることで素早くA/B比較を試聴することができます。

## In Use

VOGは、ミキシング、マスタリング、ポストプロダクション、サウンドデザイン、オーディオリストア等で使用されることを目的としています。例えば、ボーカルに胸の共鳴や「重さ」を追加する近接効果をシミュレートすることができます。簡単な調整で大きな音のするドラムサウンドも得られます。—ドラムヘッドのテンションを調整するのと同じ感覚で。または、エレキベーストラックのサウンドキャラクターも変えることができます。—ほんの数秒でソリッドボディのサウンドをホローボディのサウンドにすることもできます。VOGは、信じられないほどのディティールとパンチを加え、簡単な組み合わせでローエンドを調整するのに最適な方法となり、その柔軟性が音楽ソースに対して広い範囲での正しいチョイスになります。

## ステレオファンクション

オリジナルハードウェアはモノラル仕様ですが、プラグインではモノイン/ステレオアウト、とステレオイン/ステレオアウトで使用でき、一つのコントロールで両方のシグナルにエフェクトを加えます。

## Little Labs VOGのパラメーター

### アンプリチュード

“アンプリチュード”は、エフェクトの量を調整します。値を増やしていくと“フリーケンシー”と“センターコントロール”によって決定した周波数のゲインをブーストします。



注：“アンプリチュード”の値“0～10”は特定のdB数を表すものではなく、任意の数値です。

### フリーケンシー



“フリーケンシー”は、エフェクトのターゲット周波数を調節します。設定したセッティングより上の周波数に対し“アンプリチュード”で設定される量のブーストを行い、下の周波数は1オクターブにつき-24dBアッテネートします。

使用できる周波数レンジはセンターボタンのセッティングにより決定します。その数値は[後述の表.23](#)で示します。

オリジナルハードウェアと同様に実際に“フリーケンシー”値を上げる(時計回りに回す)と(センターフリーケンシーを減少させることで)実際には“ターゲット周波数”を下げます。“アンプリチュード”が“0”を越えるように設定した場合のみこのセッティングの変更が聞こえます。

注：“フリーケンシー”の値“0～10”は特定の周波数を表すものではなく、任意の数値です。

## センター

2つのセンタースイッチは、エフェクトがアクティブになる中心の周波数を設定します。そしてこのスイッチは使用する周波数レンジを順番に設定します。4つの使用可能な中心の周波数とエフェクトの影響がかかる周波数レンジは下記の表.23 で示します。



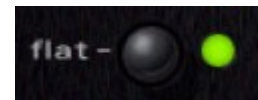
LED が赤く点灯している時はスイッチが“オン”で、緑色の LED では”オフ”の状態であることを示します。

“40”ボタンLED	“100”ボタンLED	センター周波数(Hz)	周波数レンジ(Hz)
緑	緑	40	18-60
赤	緑	42	20-62
緑	赤	100	50-180
赤	赤	200	100-305

表.23 センタースイッチの周波数値

## フラット

“フラット”が有効(赤い LED)になっている場合、EQ はバイパスされ、無効(緑色の LED)になっている場合、EQ は動作しています。フラットがオンの状態ではハードウェアのドライサウンドはモデリングされており、DSP の消費率はそのままです。本格的なバイパスを行うには“パワー”スイッチを使用してください。



## パワー



プラグインのバイパスコントロールを行います。オフの場合は、エミュレーションは無効となり、LED は暗くなります。そして DSP の消費は軽減されます。(「UAD-2 DSP ロードアンロック」を参照してください)“パワー”は、プロセッシングしたセッティングとオリジナルのシグナルを比較するために役立ちます。

Little Labs VOG ハードウェアユニット

